

第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会
第1回「まちの魅力創造プロジェクト部会」 議事概要

日 時：平成22年5月14日（金）13:00～14:30

場 所：八戸市公会堂文化ホール2階 第1会議室

出席者：委員4名（類家伸一部会長、町田直子副部会長、泉彩菜委員、中村萬之助委員）

事務局：政策推進課（清水主査、葛西主査）

庁内検討ワーキングチーム関係14課（まちづくり文化推進室、八戸ポータルミュージアム開設準備室、商工政策課、スポーツ健康課、環境政策課、道路建設課、道路維持課、建築住宅課、都市政策課、公園緑地課、運輸管理課、社会教育課、是川縄文館開館準備室、博物館）

要 旨：第5次総合計画前期推進計画における戦略プロジェクトの進捗状況を確認し、後期推進計画の戦略プロジェクトの素案について検討した。

その結果、事務局からの修正を踏まえた上で素案について委員会の了解を得た。

内 容：

1 開会

2 委員及び事務局の紹介

- ・第1回目部会となるため、委員及び事務局の紹介を行った。

3 部会長あいさつ

- ・ワークショップ形式で行う部会のため、委員の皆様には積極的な発言をお願いしたい。
- ・様々質問等あると思うが、関係課の皆さんにはご協力いただきたい。

4 報告案件

- ・事務局から、報告案件を一括して説明。

①参考統計資料の送付について（部会資料1）

- ・今後の検討の参考とするため、第1回策定委員会で要望のあった統計資料を配付。

②アンケート調査の実施について（部会資料2）

- ・調査票の一部変更点とアンケート調査の実施予定日について報告。

③市民との意見交換への協力について（部会資料3）

- ・意見交換の日程概要について報告し、委員へ協力を依頼。

5 審議案件

①戦略プロジェクトの進捗状況と素案について（部会資料4）

- ・事務局から資料を説明後、プロジェクト毎に、前期推進計画における進捗状況を確認し、後期推進計画の素案を検討した。

<2-1 中心市街地再生プロジェクト>

- ・（事務局）地域活力の創出プロジェクトから「IT産業集積促進事業」の再掲、「県空き店舗活用チャレンジ融資」の移行と新マニフェストに記載のある「大学サテライト機能懇談会事業」の追加について説明
- ・コールセンターなどIT産業の進出・撤退の状況はどうか？
→手持ちの資料がないので、後日送付させていただく。
- ・ITパートナー事業とは？
→賃料の1/8又は新規設備投資額の1/6以内で上限3,500万円を3年間補助するもの。
- ・大学サテライト機能懇談会事業とは？
→市と大学等で立ち上げたシンクタンクの成果を八戸ポータルミュージアムで公開講座として公表する。受講者は限定しないが、テーマが専門的なので集まる層は市民大学とは異なるものと想定される。
- ・新たに追加する「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」の概要は？
→店舗の改装工事費を補助するもの。詳細を定める要綱などは策定中。6月には募集開始予定。面積を一定の広さをもった店舗に制限する予定。
- ・中心街の空き店舗の数は把握しているか？
→本日、手元にはない。
- ・本日欠席した類家委員からは意見など届いていないか？
→届いていない。

<2-2 文化・スポーツプロジェクト>

- ・多文化都市八戸推進懇談会で練習場の話があった。踊りのように独自に練習場を持っているところはいいが、吹奏楽などで場所がないところは大変。特に防音設備の必要な分野では、貸す側も人がついていなければならないなど、定期的に借りることが難しい所もある。
- ・是川縄文館について、事業概要を説明してほしい。
→3月に建物は完成し、今年度は外構、展示施設の工事。オープンは未定。アルカリ性ガスの基準次第。それから物の搬入が始まるので、今秋には開館次期を発表したい。
- ・ガスが抜けるのは半年以上か？
→年単位かと。コンクリートなのでふた夏必要と思われる。来年のオープンは確実に見込まれる。
- ・「先人周知事業」とは？
→資料館を当初予定していたもの。H18年度から開始した事業。12人分のパネルを市内各所に展示している。今は公会堂文化ホールのロビーで6枚展示している。先

人 43 名分のパネル 42 枚がある。

- ・資料館の案はまだ残っているのか？
 - 市の計画には正式には載ったことがない。今は、ハード整備が難しい時期なので、資料館建設の見込みはないと思われる。
 - 八戸ポータルミュージアムの中に先人紹介コーナーあり。10 人程度を常設展示の予定。
- ・スケート場については、県でも予算がついてよい時期になった。
- ・県の予算の内容は？
 - 勉強会や視察関係。
- ・「スポーツ・健康・ダイエットフォーラム」とは？
 - 個別の教室は以前からあったが、様々な層、特に運動・ダイエットに興味がない人を引き込むことが目的。ただし、予算がつかなかったため、今年度は他課と連携し、事業を実施したい。
- ・スポーツチームを地域で持つというのは、地域活性化に有効。だが、有効に活用するための方策が問題だが、今後どのような展開があるのか。
 - アイスホッケーは市内では有名なスポーツだが、全国的には野球、サッカーほどメジャーではない。だが、八戸に拠点を移してもらったということは第一段階。まずは市民にアイスホッケーを観戦してもらい、ホッケー選手の年収や練習場所などに興味を持ってもらったり、知ってもらうことが次の段階。今年度は各所にポスターを掲示する予定。観戦は 1,000 人ほしいところだが、500～700 人程度だとチケットが割高になってしまう。
- ・練習は公開しているのか？
 - 南部山アイスアリーナで行っている。見せるほどの練習を常にしているわけではない。高校生と一緒に練習をすることもある。
- ・市民のスポーツの参加度合いや団体の数を把握しているか？
 - 体育協会所属は 61 団体。ただし、サッカー協会の下に女子やフットサル等あるが、これらは把握していない。参考となる指数は、市内のスポーツ施設利用者数や協会の会員数。前者は、11～12 万人。
 - 前回の委員会配付資料の中に市民アンケートの結果が掲載されている。

< 2-3 環境創造プロジェクト >

- ・(事務局) 資料 4 に基づき前期プロジェクトの進捗状況、後期プロジェクトの素案について説明。地域活力の創出プロジェクトから「グリーン電力証書普及促進事業」の移行について説明
- ・(事務局) 交通系については独立した施策でまとめたい。「持続可能な公共交通の確立」として、「はちのへエコ通勤」、「環境(エコ)通勤定期券発行事業」、「こども探検隊エコパスポート発行事業」、「地域公共交通活性化・再生総合事業」を対象。
- ・プロジェクトの課題に記載されている駐車施設整備に関して、市としてはこの先どのように方針を整理するつもりなのか。
 - 公共交通の利用と駐車場という利便性を比較することとなるが、前者の方を優先す

る予定。

- スマートグリッドについてはどうなったのか？
→実証実験後は検討しているところはないはず。
- 青森市の低炭素型モデルタウン構想のようなものはないのか？
→市としては、今動いているところはない。
- 八戸市は、火力、メガソーラー、LNGなどポテンシャルが高い。工業系に重視した施策はないのか？
→今のところない。新うみねこプランで低炭素に取り組むこととなる。
→シンクタンクの2期目は低炭素をテーマに取り組むことになっている。
- 企業にとって環境負荷対策は重要になってくる。減税や補助金等の条件が同じであれば、環境対策が進んでいると、工場誘致においてアドバンテージになる。